

# 07

## 雪と光のプロジェクト さっぽろユキテラス SAPPORO YUKITERRACE



高橋匡太《Snow Planets》2016年 撮影：小牧寿里

### 会場：札幌市北3条広場“アカプラ”

2015  
2月2日(月)～2月11日(水)

フロンティア・スター制作：大黒淳一  
スノーボックス制作：株式会社ワンズ・ファーム

主催：札幌駅前通地区活性化委員会  
後援：北海道  
特別協力：札幌市国内観光プロモーション実行委員会、三井不動産株式会社、  
札幌駅前通まちづくり株式会社  
制作協力：株式会社ワンズ・ファーム、ヒビノ株式会社、三穂電機株式会社、  
ディレクション：札幌駅前通まちづくり株式会社

2016  
2月2日(火)～2月11日(木)

参加作家：伊藤隆介、志村信裕、高橋匡太、フランソワ・ヴォジェール、水内貴英  
主催：札幌駅前通地区活性化委員会  
後援：北海道  
特別協力：札幌市国内観光プロモーション実行委員会  
制作協力：カラーキネティクス・ジャパン株式会社、株式会社チーム、ヒビノ株式会社、三穂電機株式会社、  
株式会社ワンズ・ファーム、株式会社六書堂  
協力：天野加津、アサヒ飲料株式会社カルビス北海道統括支店  
ディレクション：札幌駅前通まちづくり株式会社

2017  
2月4日(土)～2月12日(日)

参加作家：五十嵐淳、クォン・スンチャン、久門剛史、八木良太、山城大督  
主催：札幌駅前通地区活性化委員会  
後援：北海道  
特別協力：札幌市国内観光プロモーション実行委員会  
企画運営協力：一般社団法人PROJECTA  
制作協力：NPO法人S-AIR、株式会社六書堂、株式会社メガ・コミュニケーション、株式会社地下電設、  
株式会社ブランディング・ホンコ  
アイスバー特別協賛：三井不動産株式会社  
ディレクション：札幌駅前通まちづくり株式会社

2018  
2月3日(土)～2月11日(日)

参加作家：会田大也、ドマス・シュヴァルツ、リザ・マリア・ピッケル、渡辺望  
主催：札幌駅前通地区活性化委員会  
後援：北海道  
特別協力：さっぽろ雪まつり実行委員会  
企画運営協力：一般社団法人PROJECTA  
制作運営協力：斎藤ふみ  
制作協力：株式会社六書堂、株式会社メガ・コミュニケーション、株式会社池下電設、  
株式会社ブランディング・ホンコ  
アイスバー特別協賛：三井不動産株式会社  
ディレクション：札幌駅前通まちづくり株式会社

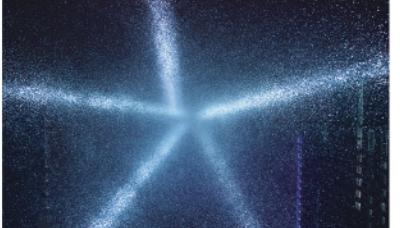
2019  
2月3日(日)～2月11日(月)

参加作家：会田大也、今村達佑、小金沢健人、タムラサトル、山内祥太、  
ラップランド大学芸術・デザイン学部×北海道大学工学研究院  
スノーミュージアム設計：五十嵐淳

主催：札幌駅前通地区活性化委員会  
後援：北海道  
特別協力：さっぽろ雪まつり実行委員会  
企画運営協力：一般社団法人PROJECTA  
制作協力：株式会社六書堂、株式会社メガ・コミュニケーション、株式会社池下電設、  
株式会社ブランディング・ホンコ  
アイスバー特別協賛：三井不動産株式会社  
ディレクション：札幌駅前通まちづくり株式会社

内容：2014年7月にオープンした「札幌市北3条広場“アカプラ”」を舞台に、札幌の特徴のひとつでもある“雪と光”をモチーフにして冬の魅力を発信するプロジェクトとして2015年に始まった。厄介者として扱われがちな雪や寒さを、この街ならではの資源ととらえ、アーティストの創造力で魅力を演出し、この冬のこの場所でしか生まれないサイトスペシフィックな体験を提案している。さっぽろ雪まつり協賛事業でもあり、会期をほぼ合わせて開催され、9～10日間の会期中に3万人近い市民や観光客が訪れる。2017年からはアイスバーも併設されている。

特徴：札幌駅前通沿道事業者、札幌市等が連携して、都心部の新たなにぎわいを創出するとともに、2013年11月にユネスコ創造都市ネットワークにメディアアーツ都市として加盟した札幌を、世界に向けて発信する事業の一環として実施されている。このユネスコ創造都市ネットワーク交流プログラムとして、2016年はフランス・アンギャンレバパン市アートセンター、2017年は韓国・光州文化財団、2018年はオーストリア・リンツ市及びアルス・エレクトロニカの協力により、それぞれアーティストを招聘している。そのためメディアアート作品が中心となっているが、寒さの厳しい冬期間の屋外での展示となるため、機材など技術面での課題が多いなか、毎年さまざまな工夫のもと、さっぽろ雪まつりとは異なる多彩な冬のアート表現を見せていている。2015年には、この場所の歴史と呼応して、開拓使のシンボルともいえる五稜星をモチーフに雪空をスクリーンとして5つの光の柱を立ち上げる「Frontier Star」、IT技術と雪の特性を利用したインタラクティブな雪あそび「Snow Box」を展示。2016年は、「光があらわすもう一つの世界」というテーマのもと、かまくら内外にアーティストが作品を展示し、昼はかまくら内部での作品鑑賞やワークショップ、夜はかまくら外部への光の演出を行った。2017年は、4つのかまくらでアーティストによる作品展示と建築家による屋外インスタレーションを展開。2018年は、インタラクティブな体験型の仕掛けを施した雪山「スノーマウンテン」と、その雪山内部に掘られたかまくらでの作品展示のほか、日没後に冬の星座をかたどった光のバルーンが広場全体を照らした。そして2019年は、「スノーミュージアム」として、建築家がデザインした雪と氷の美術館に国内外で活躍するアーティストの作品を展示する。



大黒淳一《フロンティアスター》2015年 撮影:アンドボーダー  
歴史的にも重要な道路であった北三条通を再認識するように、5つの光の柱を立ち上げ、舞い落ちる雪によって刻々と姿を変え、雪の美しさを伝える幻想的なオブジェとなった。



八木良太《Vinyl》2017年 撮影:株式会社ハレバレスシャン  
氷で作られたレコード。レコードから型取ったシリコン型に氷を流し込み、凍らせることでつくったレコードに、プレーヤーの針を落とすと音楽が流れる。



ドマス・シュヴァルツ《ワックス・ドロッピング》2018年 撮影:3KG  
ソフトウェアのモーター制御による「ワックス・スカルプチャー」(ろうの影刻)の制作の様子が現在進行形で提示され、一定の環境下でも異なる結果をもたらすインスタレーション。明かりがついでない電球がろうの容器に何度かつかると、電球の周りにろうの液が固着し、垂れたろうの「つらら」が生まれ、電球の明かりがつくとその熱で溶け出す。